

20 腎移植患者におけるエベロリムスによる口腔粘膜炎に対する半夏瀉心湯の使用経験

大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学講座 (泌尿器科学)

中澤 成晃、深江 彰太、田中 亮、谷口 歩
山中 和明、野々村 祝夫

腎移植患者は術後、終生免疫抑制剤の内服が必要となる。近年タクロリムス、ミコフェノール酸モフェチル、エベロリムス、ステロイドの4剤併用療法が多くの施設で主流となっている。エベロリムスの副作用の1つである口腔粘膜炎は発症頻度が高く、痛みによる摂食不良などのQOLを低下させる有害事象である。アズノールうがい液やデキササルチン口腔用軟膏などの対策は行っているが不十分な症例も少なくない。半夏瀉心湯は前向き試験で大腸癌、胃癌での化学療法による口内炎に対する治療薬として良好な成績が得られており、近年では口腔粘膜炎の発症機序の解明、それに対する半夏瀉心湯の作用メカニズムも解明されつつある。また半夏瀉心湯の生薬成分は、CYP3A阻害作用を有するものがなく、腎移植患者においても比較的安全に使用が可能である。今回、我々は腎移植患者におけるエベロリムスによる口腔粘膜炎に対する半夏瀉心湯を少数例ながら使用したので、その経験を報告する。